

序

近年、夏期が平年に比べ高温で推移する傾向にあり、特に平成11年は北日本、東日本での記録的な高温や西日本での長雨・日照不足により、1等米比率が低下し、なかでも乳白粒等の割合が北日本・東日本を中心に高く、全国でも格落ち理由の約4割を占め、高温の影響による品質の低下が顕著にみられた。

また、平成12年は全国的に高温となり、品質の低下はみられなかったものの東北地方を中心に登熟期が10日程度早まる等の現象が発生した。

平成11年10月に農林水産省においてとりまとめられた「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策大綱」では、需要に応じた米の計画的生産を徹底することとしており、米の作柄の安定と品質の確保を図るため、気象変動に対する確に対応できる技術対策が従来にも増して重要となっている。

本書では、このような観点から、近年の高温年における気象状況、水稻の生育状況及び品質概況等のデータ及び最新の試験研究結果を踏まえた解析等を取りまとめたものである。また、これらの解析結果等を踏まえ、高温時に対処した水稻の技術対策についても最後に付け加えた。

本書が県普及職員等、全国各地の指導者の方々の一助になることを願うとともに、乳白粒発生等の高温障害が防止されることに期待したい。

平成13年2月
大臣官房技術総括審議官
大森 昭彦